いずみ

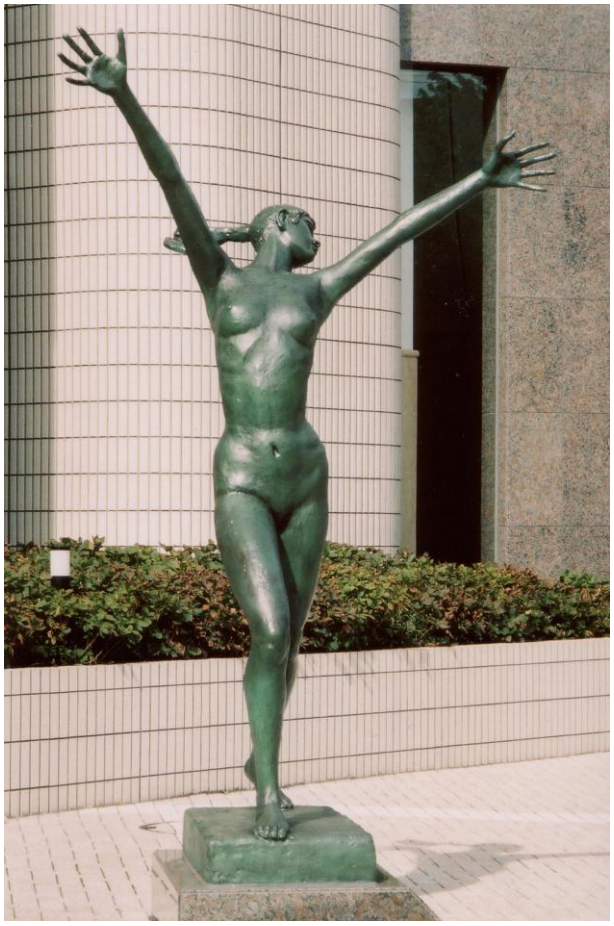
（題字:國松　明日香氏）

札幌彫刻美術館友の会会報

第 11 号

2005 年４月１日発行

本郷新彫刻シリーズ　１１



「躍　進」

（札幌市中央区北１西 14
UHB 北海道文化放送前）

UHB 本社前に置かれているもう１体の「賛歌」像と対の女性像作品で 1972 年に制作され、73 年から東京・大手町のビル街に置かれていたが、98 年、新社屋落成を記念して同社が購入、自社前に設置した。

本郷新生誕 100 年記念特集号

「生誕 100 周年を祝して」

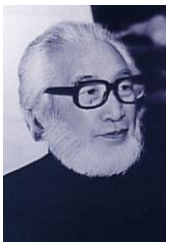
札幌彫刻美術館友の会会長
橋本　信夫

日本の近代彫刻をリードした本郷新の生誕 100 周年を迎えました。

友の会はこれを記念し、彫刻家・本郷新の豊かな人間性と偉大な業績を次代に伝えるべく本郷新ゆかりの方々のエッセーや関連資料の収集に努めているところです。

さらに友の会は館主催の記念祝賀事業を全力を挙げて支援する所存です。

生誕 100 年　本郷新のプロフィル



1905 年（明治 38 年）12 月 9 日、札幌生まれ。札幌 2 中（現札幌西高）から北海中（現北海高校）を経て 1925 年（大正 14 年）、東京高等工芸学校（現千葉大工学部）彫刻科入学。28 年（昭和 3 年）、国画創作協会（この年、国画会に改称）彫刻部の第 7 回展に「少女の首」初入選。この頃から高村光太郎に師事、ロダン、ブールデルなど、フランス近代彫刻に傾倒。国画会退会の後、新制作派協会（のち新制作協会と改称）彫刻部の創設に参加、第 1 回展に「ホロカメトック遭難記念碑」を出品した。戦後、日本美術会の創設にかかわり、造形力と社会性を特徴とする作品を制作。さらに平和運動にも加わり、記念碑的な大作を手がけ、数多くのモニュメントを各地に制作した。53 年（昭和 28 年）、京都・立命館大に建てた戦没学生記念像「わだつみのこえ」は代表作。ほかに、札幌五輪記念の「雪華の舞」、稚内の樺太慰霊碑「氷雪の門」、旭川常磐公園の北海道開拓記念碑「風雪の群像」、石狩浜の「無辜（むこ）の民」など多数。75 年、札幌で「本郷新彫刻 50 年記念自選展」開催。74 年、北海道新聞文化賞、78 年、北海道文化賞を受賞。80 年（昭和 55 年）2 月 13 日、75 歳で没。81 年、遺志で寄贈された札幌のアトリエ、土地と作品を核に札幌彫刻美術館が開館、83 年から本郷新賞が設けられた。

目　　次

彫刻シリーズ 11「躍進」 …… 表紙
生誕 100 周年を祝して　橋本信夫 …… 2
本郷新のプロフィル …… 2
特別巻頭言［外光の美」に魅せられて　原子　修 …… 3
生誕 100 年記念特集　「私の中の本郷新」 …… 5
特別寄稿「わだつみ像」余聞（上）　小尾　陞 …… 13
本郷新 100 年の光　今井里江子 …… 16
本郷新ちょっといい話（上）　仲野三郎 …… 17
新年会と講演会（要旨） …… 19
平成 17 年度総会のお知らせ …… 20
平成 17 年彫刻美術館行事予定 …… 21
友の会制作ビデオ「本郷新の野外彫刻の魅力完成」 …… 22

「生誕 100 周年を祝して」

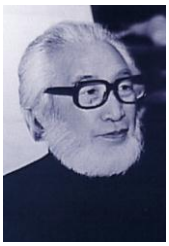
札幌彫刻美術館友の会会長
橋本　信夫

日本の近代彫刻をリードした本郷新の生誕 100 周年を迎えました。

友の会はこれを記念し、彫刻家・本郷新の豊かな人間性と偉大な業績を次代に伝えるべく本郷新ゆかりの方々のエッセーや関連資料の収集に努めているところです。

さらに友の会は館主催の記念祝賀事業を全力を挙げて支援する所存です。

生誕 100 年　本郷新のプロフィル



1905 年（明治 38 年）12 月 9 日、札幌生まれ。札幌 2 中（現札幌西高）から北海中（現北海高校）を経て 1925 年（大正 14 年）、東京高等工芸学校（現千葉大工学部）彫刻科入学。28 年（昭和 3 年）、国画創作協会（この年、国画会に改称）彫刻部の第 7 回展に「少女の首」初入選。この頃から高村光太郎に師事、ロダン、ブールデルなど、フランス近代彫刻に傾倒。国画会退会の後、新制作派協会（のち新制作協会と改称）彫刻部の創設に参加、第 1 回展に「ホロカメトック遭難記念碑」を出品した。戦後、日本美術会の創設にかかわり、造形力と社会性を特徴とする作品を制作。さらに平和運動にも加わり、記念碑的な大作を手がけ、数多くのモニュメントを各地に制作した。53 年（昭和 28 年）、京都・立命館大に建てた戦没学生記念像「わだつみのこえ」は代表作。ほかに、札幌五輪記念の「雪華の舞」、稚内の樺太慰霊碑「氷雪の門」、旭川常磐公園の北海道開拓記念碑「風雪の群像」、石狩浜の「無辜（むこ）の民」など多数。75 年、札幌で「本郷新彫刻 50 年記念自選展」開催。74 年、北海道新聞文化賞、78 年、北海道文化賞を受賞。80 年（昭和 55 年）2 月 13 日、75 歳で没。81 年、遺志で寄贈された札幌のアトリエ、土地と作品を核に札幌彫刻美術館が開館、83 年から本郷新賞が設けられた。

目　　次

彫刻シリーズ 11「躍進」 …… 表紙
生誕 100 周年を祝して　橋本信夫 …… 2
本郷新のプロフィル …… 2
特別巻頭言［外光の美」に魅せられて　原子　修 …… 3
生誕 100 年記念特集　「私の中の本郷新」 …… 5
特別寄稿「わだつみ像」余聞（上）　小尾　陞 …… 13
本郷新 100 年の光　今井里江子 …… 16
本郷新ちょっといい話（上）　仲野三郎 …… 17
新年会と講演会（要旨） …… 19
平成 17 年度総会のお知らせ …… 20
平成 17 年彫刻美術館行事予定 …… 21
友の会制作ビデオ「本郷新の野外彫刻の魅力完成」 …… 22

「わだつみ像」余聞　〈上〉

小尾　陞（たかし）（会員）

はじめに

本郷新の作品の中で「わだつみ像」は最もポピュラーな作品の一つであり、代表作の一つに上げるのに誰からも異論が出ないであろう。

この作品は本来東京大学の構内に設置されるとして作られたものであり、そうなっておれば制作依頼者と作者である本郷新が意図したものにふさわしい社会的役割を、今も東大構内で果たし続けているはずだったのである。

1「きけわだつみのこえ」出版

東大戦没学生の遺稿集が発端

今年は戦後 60 年の節目の年であるが、終戦 2 年前の 1943（昭和 18 年）6 月に「学徒戦時増員体制確立要綱」が決定され、10 月 2 日に「徴兵猶予」停止、そして 10 月 21 日の明治神宮外苑競技場での雨中の「学徒出陣」壮行会と続くが、幾多の有為なる学徒が戦場の露と消えて行った。

東京大学の学生からもたくさんの戦死者が出ているが、戦後 2 年目の 1947 年 12 月に東大学生自治会に設けられた「東大戦没学生手記編集委員会」により『はるかなる山河に』と題する遺稿集が、東大協同組合出版会より刊行された。この本は全国的に大きな反響をよび、それを発展させて全国の大学高専出身の戦没学生の遺稿を募ることになり、48 年春、出版部の中に「日本戦没学生手記編集委員会」がつくられた。集まった膨大な文の中より選定して、「きけ　わだつみのこえ――日本戦没学生の手記」が 1949 年 10 月に出版された。この本は当時、大変なベストセラーになったが、その後、東京大学出版会より、東大新書として、ついで光文社の「カッパ・ブックス」で、そして現在は岩波書店より文庫本として出版されている。署名の「わだつみ」は一般公募で決まったものの中にあった、京都の藤谷多喜雄氏の『なげけるか　いかれるか　はたもだせるか　きけ　はてしなきわだつみのこえ』の短歌よりとられたものである。

2「わだつみ像」制作と「わだつみ会」

〝男の裸像〟男女共学で東大が設置拒否

この遺稿集が広まる中で、編集出版に中心的役割を果たしていた中村克郎氏より、ほんの印税の一部で戦争反対の思想を訴える記念事業を起こそうという

アピールが出され、それが受け入れられた。中村氏は編集顧問であった小田切秀雄氏に記念像の制作を相談したところ、即座に本郷新の名があがり、1950 年 1 月、両人でアトリエに赴いて依頼をし、快諾が得られて、「わだつみ像」が制作されたのである。他方、50 年 4 月に結成された日本戦没学生記念会（略称「わだつみ会」）も印税の一部を基金として結成されたものである。（この会は 1958 年８月の第９回全国大会で学生の全国組織としての会は解散したが、戦中世代のイニシャティブのもと 59 年 6 月に発足。10 月には光文社よりカッパ・ブックス版の「きけわだつみのこえ」が発行されている）

当時は緊迫した情勢で本郷新が「わだつみ像」の制作途上の 1950 年 6 月朝鮮戦争が勃発し、自衛隊の全身である警察予備隊も同年 8 月に創設されている。

像の制作に当たって本郷は「学生の悲惨な状況、つまりボロボロの軍服をまとって折れた鉄砲を持ったもの、さもなければ健康な肉体を作るか。とにかく素裸で若々しい青春の肉体を持った人間ということでいこう」ということで、１３人の青年をモデルとして写生し、「戦争に駆り出され、無残にも死んでいった学生たちの誇りと悲しみと煩悶、それは国の犠牲者という形で賛美されるべき筋のものではない」との思いで、13 体の写生の中から選んだ 1 体を彫刻にしたといわれている。

「わだつみ像」の完成日は 1950 年の終戦記念日の８月 15 日と台座に刻まれ、都美術館で開催された９月の新制作展に出品された。そして太平洋戦争開戦の日を記念して 12 月８日に東大図書館前に設置する予定となったが、東大の評議会（大学における最高の意思決定機関）はそれを認めなかった。当時の総長は南原繁氏で、総長は好意的で三分の二は賛成派だったが、「文部省に顔のいい先生」の中から、「学内に設置される彫像は東大関係者の像に限られるのが原則であって、他大学出身者を含む戦没学生の像の建立は前例にそむく」とか、「これから女子学生も多数入学してくる東大構内に男の裸像は風紀上問題がある」などの意見が出されたと伝えられているが、最終的には許可が得られなかったのである。

翌年の五月祭（大学祭）に学生たちは像を展示しようとし、５月 26 日門前での一悶着の後、正門と安田講堂とを結ぶ銀杏並木の片隅に、1 時間の期限を 3 時間超過して 4 時間だけ像は東大の土を踏むことができた。本郷新もその光景を自分の目で見たとのことである。

3「わだつみ像」は立命館大へ

末川博総長が救いの手

行きの場のない「わだつみ像」は結局アトリエに戻ることとなったが、52

年 12 月、ウイーンで開催される世界平和大会に出席のため渡欧する際、本郷新は「俺のいない間、ガサをくってもこの書類だけは守ってくれ」と分厚い書類を置いていったが、その隠し場所に何と「わだつみ像」の空洞が利用されるという一幕もあったとのことである。(本郷新は日本共産党員であって、当時は共産党に対する弾圧事件が全国的に頻発し、北海道でも 1952 年に白鳥事件、芦別事件が起こり、共産党は事実上半ば非合法状態となっていた)。

宙に浮いてしまった像に手を差し伸べたのは立命館大学の末川博総長で、大学構内に建立する場所を提供するとの申し出があり、1953 年 11 月に像は京都に運ばれた。像を載せたトラックは市内をパレードし、多数の市民が出迎え、熱烈な歓迎を行った。さらに、京都の各大学の学生団体は、立命館大学で開催される歓迎集会に向けてデモの隊列を組んで行進を行った。京都大学の隊列が鴨川の荒神橋を渡ろうとしたとき、静粛な行進であったにもかかわらず、無届でもであったため警官隊の阻止に会い、警官隊と後続のデモ隊に挟まれる形で、多数の学生が橋の上から河原に転落。5 名が重傷となった。歓迎集会に集まった各大学の学生はこの報告を聞いて憤激したのは当然で、抗議のために仲立売署に赴いた学生 5～600 人は市警前で警察官よりＥ弾と呼ばれる一種の爆弾と警棒による攻撃を受け、9 名の重傷者が出た。各大学の学生部長らを中心として、立命館大末川博総長、同志社大田端忍学長、大阪市立大恒藤恭学長、京都学芸大山内得立学長を顧問とする「11.11 事件究明教授団」が結成され、パンフの刊行などの活動によって、事件を社会に訴えた。

「わだつみ像」の建立･除幕式は太平洋戦争開戦記念日の 12 月 8 日に行われ、台石には末川総長の名で「未来を信じ、未来に生きる、そこに青年の生命がある」と記し、「その貴い未来と生命を聖戦の美名のもとに奪いさられた青年学徒たち。なげけるか　いかれるか　はたもだせるか　きけ　はてしなきわだつみのこえ」の碑文が刻まれた。立命館大学では今でも毎年その日に像の前で「不戦の誓い」が行われている。

（次号へ続く）

札幌芸術の森美術館主催

生誕 100 年　本郷　新　展

戦後日本の彫刻界をリードした本郷新の大作「緑の賛歌」の石膏原型や各地の野外彫刻の写真パネルで本郷芸術の全貌に迫る展覧会。第 2 会場の札幌彫刻美術館では家族や友人をモデルにした肖像彫刻、最晩年のキリスト素描群を展示、本郷の人間像を紹介する。

- **会　場　　札幌芸術の森美術館**
- **期　間　　5 月 21 日～6 月 19 日まで会期中無休）**
- **入場料　　一般 700 円、大学・高校生 350 円、小中学生 140 円**

本郷新 100 年の光

今井里江子

（札幌芸術の森美術館学芸員）

風薫る 5 月、本郷新の歴史に新たな光が灯される。札幌芸術の森美術館と札幌彫刻美術館の 2 館を会場に開催される「生誕 100 年　本郷新展」は、その芸術性の全貌に迫ろうとするものである。

第 1 会場となる札幌芸術の森美術館では、本郷作品のモニュメンタリティーに注目して展示を構成する。東京高等工芸学校在学中に国画創作協会展で初入選した「少女の首」（1928 年）から、亡くなる前年に作られた「遥かなる母子像」（1979 年）までの作品を、様式の変遷や野外彫刻における先駆的活動などの観点から展示するとともに、全国各地に設置されている野外彫刻を写真パネルで紹介し、本郷芸術の全体像を改めて知ってもらう機会としたい。

みどころは、1970 年に集中的に作られたブロンズ小像連作〈無辜の民〉、札幌市南区五輪大橋に設置されている「花束」のエスキース（1972 年）など、札幌彫刻美術館所蔵作品に加え、「わだつみのこえ」（1950 年、神奈川県立近代美術館蔵）、「哭」（1959 年、彫刻の森美術館蔵）、「鳥を抱く女」（1962 年、東京国立近代美術館蔵）といった、全国から集められた主要作品の数々である。「氷雪の門」（1963 年）、「緑の賛歌」（1973 年）といった２～４メートルの石膏原型も出品される予定である。彫刻とは「やっぱり空間の中のひとつの存在感」と語った本郷がどのような世界を構築したかったのか、本来の壮大なスケールはもとより、広い展示室の中で見せるまた異なった表情も合わせて実感していただきたい。

また、1950 年代後半に数多く製作された裸婦像のコーナーでは、さまざまなポーズを試す作家の旺盛な探求ぶりとともに、50 年代末以降の「泉の像」、「太陽の賛歌」といった、伸びやかな四肢を持つモニュメント作品の素地がここで培われたことが伺われよう。

木や石、テラコッタの作品となると、作風が一変する。「哭」をはじめ、「声あり」、「若い男の首」、「馬の首」など、出品候補作の多くが約 80 センチとボリュームがあり、土俗的で力強い造形には目を見張るものがある。このほか、小樽の春香山アトリエで自由気ままに作られたテラコッタ作品も紹介し、老いてますます旺盛で奔放な創作ぶりを伝えたい。

晩年の母子像は、キリスト教美術に見られる幼いキリストと聖母マリアの平穏な母子のイメージとは異なっており、本郷独自の母子の在り方が表れている。こうした母子像もまた、本郷にとってはモニュメントと呼びうるものであったろう。

なぜならば、彼にとってモニュメントとは、野外に設置されたというよりもむしろ、人間の本質が顕現したものを意味していた

からだある。彫像の豊かな量感と堅固な構築性に精神性が加わることで、どこそこの誰と特定できる英雄像を超えた、人類普遍のモニュメンタリティーが作品に宿る。今回、全 15 点を展示する 30 センチ程度の〈無辜の民〉連作についても、本郷は「小さくてもそこにモニュメンタルな意識があるかないか、ということで、それがモニュマンであるかないか」を決定付けると語っており、作品のサイズよりも精神性や主題を問題としている。無名の市民が力強く生きる姿を数多くの作品に表した本郷のモニュメンタリティーとはどんなものか、この展覧会を通して改めて問いかけたい。

展覧会の開催は、いわば聖火リレーに参加するようなものである。現代に生きる我々の目で新たな本郷論を加えて彫刻史の流れの中に位置づけよう―そして彫刻家・本郷の再評価は、彼が生まれ育った札幌から始めるのがふさわしいのではないだろうか。「生誕 100 年　本郷新展」によって引き継がれる灯は小さくとも、この先 100 年、本郷芸術の行く先を照らすことを願う次第である。

※ 表記のない作品は、いずれも札幌彫刻美術館の所蔵です。

※ 出品作品は変更する可能性があります。あらかじめご了承ください。

ギャラリーシリーズ　8　「METAL　ART　FACTORY」 魚々子（ななこ）

金属を素材とする造形作家の作品を展示販売する工房が昨年 12 月、札幌・北区にオープンした。

店名の「魚々子」は金属工芸に使う「タガネ」という道具の名。札幌在住の十数名の作家によって設立された。かつて友の会で石狩市高岡のアトリエを訪問した際の佐々木けいしさん、川上りえさんご夫妻がその会員であることを知り、身近なものに感じた。

古い住宅を改装した工房１階の２間に小型の金属作品がたくさん並べられている。大型の作品が多い佐々木さんと川上さんは、ここでは鉄、銅、アルミなどの小型のオブジェや大型作品のレプリカなどを出品している。他の作家からは、銀の指輪やペンダントなどのジュエリー、錫（すず）の徳利やぐい呑み、一輪挿し、銅の表札や茶筒、マグカップ、ステンレスのスプーンとフォーク、鉄の時計やキャンドルホルダーなどなど、小物の手作り作品が多数出品され、ところ狭ましと、並んでいる。いずれも価格がついており、数千円台のものが多いようだが数万円のものもある。

北海道には金属加工の産地や金属工芸の伝統もないので、金属アートにはなじみが薄いが、ここに並んでいる作品を見ていると、素材は硬く冷たい金属でも、何か温かみのある楽しい雰囲気が感じられる。多くの市民がこの工房を訪れ、金属アートに親しみ、工芸作家をサポート出来れば、大変良いことだと思う。　（原　典夫・会員）

場所：北区北１７条西６丁目 20　tel.708-7754

時間：木、金、土、日(11：00～20：00)

本郷新の
ちょっといい話 上

仲野　三郎（会員）

私たちの敬愛する本郷新は 1905 年（明治 38 年）12 月 9 日、札幌市で誕生した。くしくも私の母も明治 38 年 12 月生まれ。誕生年月とも本郷と同じ。何か因縁めいたものを感じ、親近感がわく。しかも、縁あって私も道内の本郷新の野外彫刻を巡り、美術館のボランティアで本郷とかかわっている。そうした中から、記憶に残る本郷新の意外なエピソードなどあまり知られていない話題を紹介したい。

第 1 話　道内の本郷新作品はいくつ？

私が全道を走り回って記録したところによると、道内にある本郷新の作品は 94 作品で、その概要は次の通りである。

① 野外に置かれた彫刻 64 点、有料施設にあるもの 10 点、屋内に置かれているもの 20 点

② 本郷新の作品をたくさん持っている市町村のベスト 3 は、札幌 34 点、長万部 10 点、苫小牧 9 点

③ 野外にあるモニュメンタル作品は 25 点、肖像は 15 点

これら 94 作品のうち 5 点は美術館にも記録がなく、私が道内を走り回っているうちに見つけたもので、4 点が肖像、1 点は裸婦像であった。

この裸婦像にはちょっとした後日談がある。作品は洞爺の簡易保険保養センターの 1 階ロビーに置かれていた。高さ 40 センチほどの小品で、ゆったりと微笑を浮かべ、何か夢見るような表情が愛らしい作品である。

あるとき、友の会の企画で洞爺湖めぐりが実現し、30 人ほどを裸婦像のあるこのセンターに案内した。その時、かっぷくのいい会員の M さんが受付の女性に、「この作品は北海道が誇る本郷新という作家の作品だ。もっと良い場所に設置しろ」と迫って困らせた。あの裸婦像、今はどうなっていることだろう。

第 2 話　女優の岸田今日子さんは教え子

本郷新は 1928 年（昭和 3 年）、東京高等工芸学校（現千葉大工学部）を卒業した。この年、新設された国画会彫刻部に「少女の首」を出品し、初入選している。

卒業に当たって本郷新には大きな転機が訪れていた。それは就職である。教授に造幣局の職を斡旋され、4 月 2 日、「今日から 50 円の月給トリか」と自問しながら出かけたが、どうしても造幣局の門を入ることができず、引き返してしまったのだ。もし、造幣局に就職していたら、本郷新デザインによる貨幣が出ていたかもしれな

いなどと考えると楽しい。

結局、翌1929年（昭和９年）、創立されたばかりの恵泉女学園に絵画の講師として招かれ、その後、いくつかの教職に就いたが、42 年には自由学園の美術教師になっている。その時、何と女優の岸田今日子さんを教えているのだ。岸田さんはその思い出を次のように書いている。

「小学校、女学校とお手本を忠実に描かされる時代に育って、生まれつき不器用な私は絵を描くのなんか大きらいでした。そして終戦後入学した自由学園に、美術の先生として本郷先生がいらしたのです」

本郷新の指導で絵が好きになった岸田さん。そして２学期。

「2 学期の美術は木彫でした。荒物屋で売っている、ゴツゴツした木のお玉じゃくしが一つずつ渡されます。私たちは彫刻刀や糸のこを使って、それを美術作品に仕上げなければなりません。本郷先生はその１本を取り上げ、太い指で撫で回しながらおっしゃったのでした。『目をつぶって撫でてみなさい。手ざわりがいいカーヴが出ている』。私たちは真剣に目をつぶり、心をこめてお玉じゃくしを撫で回しました。先生はいつも、生徒のいいところだけを見つけようとしていらっしゃる様でした。私たちの作りかけの、ぶざまなお玉じゃくしを、愛情をこめて撫でていらっしゃる先生を見て、私はいつも『本郷先生はバクにそっくりだ』と思いました。ほんとに夢を食べて生きていらっしゃると聞いても、私は驚きません」（原文のまま）

この文に本郷新の物事に対する観察力、指導力、そして温かさが見事に表れていると思う。

友の会便り

下記の会員の方の展覧会が２月から３月にかけて札幌・さいとうギャラリーで開かれました。

◇2 月 15 日—20 日　早川敏之第 6 回写真展

◇3 月　1日—6 日　　車谷津矢子油絵展

◇3 月 22 日—27 日　船迫吉江「私のすみれ」出版記念展・植物画

◇3 月 22 日—27 日　上西知子日本画展

2005 年　友の会新年会と講演会

「100 年にふさわしいうねりを」橋本会長あいさつ

講演は奥岡茂雄芸森美術館長

彫刻美術館友の会の 2005 年新年会と講演会が 1 月 22 日、中央区の札幌第一ホテルで行われました。新年会ではこれまで最高の 43 人の来賓、会員が出席、本郷新生誕 100 周年の年にふさわしい活動を誓い合いました。

新年会に先立って恒例の講演会が行われ、札幌芸術の森美術館長・浅井学園教授の奥岡茂雄さん（前道立近代美術館副館長）が「芸術は人なり―体験的美術鑑賞論」と題して講演しました。奥岡さんは学芸員としての長い経験から培われた芸術論を多くの作家との触れ合いや道産子作家の作品など自作スライドを使いながら講演、「美術鑑賞の本当の意味は作家や作品との出会い、めぐり合いを大切にすることではないか」などと話しました。

引き続いて新年会に移り、橋本信夫会長が「今年は本郷新生誕 100 周年で、多くのイベントがあるが、友の会としてもこれらを応援する立場で活動の大きなうねりをつくりたい」とあいさつ。続いて、彫刻家の山田吉泰さんの乾杯で開宴、各テーブルで話に花を咲かせました。また、橋本会長が出題した「自由の女神」像にまつわるクイズや全員が参加した勝ち上がりのジャンケンゲームで盛り上がり、彫刻家の渡辺行夫さんが「彫刻を愛する人たちと心地よいひと時を味わえました」とのあいさつで会を締めくくりました。

講演要旨「芸術は人なり―体験的美術鑑賞」

札幌芸術の森美術館長・浅井学園教授　奥岡茂雄

美術館の学芸員として 30 年、多くの作品を見、多くの作家たちと出会い、話を聞く機会に恵まれた。それらが私自身の生き方にも大きな影響を与え、刺激にもなった。

私たちが美術作品、あるいは作家と出会うことは巡り合わせ、つまり「仕合わせ」であると考えてきた。「仕合わせ」とは予期せぬ巡り合わせであって、巡り合わせに感謝し、作品や作家と虚心坦懐に付き合うことが極めて大切。こうした予期せぬ巡り合わせを「ああ良かったなあ」と考える過程が「仕合わせ」即ち、「幸せ」ではないか。

自分が多くの人と巡り合い、作品と対面して感じることは、芸術は人間が作るものであり、人間が見るものである以上、人間を離れて存在するものではないということ。

芸術には二面性がある。それぞれの作品には作家のいろいろな思い、悩み、生き方が込められている。つまり「絵は人なり」ということ。もうひとつは「絵は一人歩きする」ということ。例えば、神田日勝の絶筆、半欠けの馬の作品は結果的に彼の死後、彼の人生ドラマと重なって一人歩きしているように。

作品を鑑賞する場合、作家が死に物狂いで作った作品をいい加減な気持ちで見ていいのかということ。順徳天皇の「八雲御抄」に「浅き心をもちて、深き心をそしる、最もおそるべきことなり」とある。経験を積み、いい物を見る目を肥やすことが大切。さらに、江戸時代後期の田能村竹田に「画を見るは画を作るより難し」の言葉がある。見るという行為は難しい行為で、見る人も努力が必要であると言っている。また、それよりもずっとさかのぼる南北朝時代の尺八の名人、頓阿には、「人は深く生きるとき、人生の悲しみをしみじみと知る。この思いの浅いものが作る芸術作品はたとえ技量的にいかに優れていても、人の心に深く染み入る力には欠ける」という意味の言葉が残っている。つまりは、こうした認識が見る者にも、作る者にも要求されているのではないかと思う。

＊　　＊　　＊

このあと、講師から国松登、小谷博貞、小川原脩、森田紗伊、岩橋英遠、菊川多賀の 6 作家について、作品スライドなどを使って芸術と人となりについて解説があった。

友の会制作ビデオ「本郷新の野外彫刻の魅力」が完成！

札幌市生涯学習振興財団の平成 16 年度視聴覚教材ビデオ制作委託事業の募集に応じて、彫刻美術館友の会が制作に挑戦していたビデオ「本郷新の野外彫刻の魅力」が出来上がった。

ビデオは札幌市に散在する本郷の野外彫刻 15 点を対象に 107 カット、11 分 25 秒の作品に仕上がった。

制作には橋本会長（ビデオ制作グループ代表）を中心に大勢の会員が参加、資料収集、脚本作り、ビデオ撮影、パソコンでの編集作業などを分担した。

橋本会長は「ズブの素人集団がタイトルからナレーション、音楽など総合した難しいデジタルビデオ編集に取り組み、専門家の指導を受けながら何とか完成にこぎつけた意義は大きい」と大満足。今後は作品解説、彫刻制作過程の紹介、展覧会、インタビューなどテレビやホームページを通した友の会活動に役立てたいと意欲を燃やしている。

平成 17 年度札幌彫刻美術館展覧会・行事予定

◇本館

- 前期収蔵品展　躍動する裸婦の魅力　　３月 26 日（土）～8 月 21 日（日）
- 生誕 100 年　本郷新展（記念館と同時開催）　5 月 21 日（土）～6 月 19 日（土）
- 馬と少年シリーズ　6 月 24 日（金）～8 月 21 日（日）
- 第 12 回本郷新賞受賞記念彫刻展　8 月 27 日（土）～10 月 10 日（月）
- 後期収蔵品展　　鳥を抱く女シリーズ　10 月 15 日（土）～3 月 20 日（月）

◇記念館

- 前期収蔵品展　本郷新が愛した石狩浜と白樺　3 月 26 日（土）～8 月 21 日（日）
- 生誕 100 年　本郷新展（本館と同時開催）　5 月 21 日（土）～6 月 19 日（土）
- 海外旅行の思い出　6 月 24 日（金）～8 月 21 日（日）
- 本郷新の野外彫刻　8 月 27 日（土）～10 月 10 日（月）
- 後期収蔵品展　素描展パート４　10 月 15 日（土）～3 月 20 日（月）
- 本郷新の版画　1 月 11 日（水）～3 月 20 日（月）

◇散策と美術鑑賞の会

- ５月７日（土）　ステージⅠ「春の円山」
- 6 月 10 日（金）　ステージⅡ「初夏の大倉山」
- 7 月 30 日（土）　ステージⅢ「宮の森彫刻フィールドワーク」
- 9 月 24 日（土）　ステージⅣ「秋の三角山」
- 10 月 22 日（土）　ステージⅤ「三角山と大倉山の縦走」
- 3 月 11 日（土）　ステージⅥ「春雪の三角山」

◇教育普及事業

△5 月 5 日（木）こどもデー△6 月 29 日（水）「石狩」像を訪ねて△7 月 8 日（金）市内彫刻めぐり△7 月 22 日（金）サマーコンサート△8 月 2・3 日（火・水）子ども（小学生）造形教室△8 月 4・5 日（木・金）子ども（中学生）造形教室△9 月 14・15 日（水・木）道内めぐり△9 月 23 日（金）宮の森サンクスデー△10 月 1・2 日（土・日）造形教室（テラコッタ）△11 月 3 日（木）サンクスデー（市民無料開放）△12 月 23 日クリスマスコンサート△1 月 12 日（木）子ども（小学生）造形教室△2 月 18・19 日（土・日）造形教室（テラコッタ）

◇開館時間：4－9 月、午前 10 時―午後 5 時　◇休館日：月曜日（月曜が祝日等の場合は翌日）

◇交通機関：地下鉄東西線「西 28 丁目」駅下車、ＪＲ北海道バス山の手環状線 3 番乗り場「彫刻美術館入口」下車徒歩 10 分◇観覧料：/常設展一般 300 円（250 円）高大生 200 円（100 円）小中学生無料、カッコ内は 10 名以上の団体。

財団法人札幌彫刻美術館　〒064-0954 札幌市中央区宮の森 4 条 12 丁目℡011-642-5709

平成16年度札幌彫刻美術館友の会会員名簿

平成１７年３月３日現在

番号	氏　名	番号	氏　名	番号	氏　名	番号	氏　名
1	藤島　積　*	41	沖中順子	81	今泉　省吾	121	宮澤美己子
2	寺山敏保　*	42	山本　緑	82	大橋泰子	122	米永繁子
3	前川一彦　*	43	高橋昌宏	83	加藤邦子	123	遊佐　勝
4	三輪　望　*	44	大竹保廣	84	菊池博盛	124	宮崎　亨
5	浦口鉄男	45	柏村　知子	85	木下啓二	125	八子晋嗣
6	橋本　信夫	46	鈴木貞司	86	栗村玉恵	126	山田典子
7	斉藤美年子	47	生越敏子	87	笹波　瑩	127	常田益代
8	榎本真澄	48	原　典夫	88	鹿内恭子	128	中村真規
9	岡本憲子	49	吉田二郎	89	島　正孝	129	山内敦子
10	大竹明子	50	小澤美智	90	進藤盛夫	130	高橋美紀
11	織田寿子	51	佐藤美子	91	高下泰三	131	大内　和
12	鈴木敏明	52	船迫吉江	92	高下マリ子	132	塚原房樹
13	高橋淑子	53	佐藤セツ子	93	田中扶美子	133	矢橋温郎
14	仲野　三郎	54	宇野尤子	94	野尻洋子		
15	野崎泰男	55	車谷津矢子	95	森　茂樹	*	顧問
16	原　寿子	56	溝口芳夫	96	吉村　巳		
17	三上正一	57	奥井登代	97	須田靖子		
18	吉田修子	58	島岡孝子	98	鎌田　実		
19	渡辺洋子	59	松下由紀子	99	早川敏之		
20	濱　久子	60	西田浩太郎	100	富岡　圭		
21	高津多香子	61	上西知子	101	米川由美子		
22	伏木忠了	62	安斎雅勝	102	渡辺祐子		
23	浦沢　正三	63	千葉彰子	103	弥永槇子		
24	浦沢　价子	64	橋本　邦江	104	白戸啓子		
25	斉藤公美雄	65	小尾　陞	105	平野　香		
26	伊藤末子	66	谷村一美	106	朝倉光雄		
27	斉藤澄子	67	遠藤和恵	107	石井英夫		
28	大久保志絵子	68	佐々木保枝	108	細川正人		
29	菊池満代	69	浪岡豊明	109	東原秀行		
30	北明邦雄	70	桑原昭子	110	荒木いち子		
31	柴田惇子	71	宮地香代子	111	馬場房子		
32	山内美智子	72	森田佐和子	112	渡辺行夫		
33	金井重博	73	宮沢英次良	113	石崎貞子		
34	永井漾子	74	宮沢佳子	114	大島美和子		
35	橋本洋一	75	井形徳昭	115	細野小夜子		
36	鈴木敏夫	76	井形則子	116	福井貴美子		
37	山崎治雄	77	秋山真澄	117	小笠原芳子		
38	池田美恵	78	新木葉子	118	小川真優美		
39	大西美智子	79	池田牧夫	119	大竹圭子		
40	手島睦子	80	伊藤幸子	120	瀬川洋明		

平成１６年度　会員数　１２９名

抜海の目

空回りする期待感

「いずみ」の創刊号が大通公園にある「泉の像」を載せて登場したのは 3 年前の平成 14 年 9 月 1 日。号を重ねて今号で 11 号になった。

「いずみ」の特色はコラム「抜海の目」にある。これは〝書き人知らず〟の欄で、問題点の指摘や批評のコーナーとして 2 号の「北の彫刻展 2002 の一日」から始まった。3 号「ゼロ＋１＝１ではない、マイナスだ」、4 号「札幌彫刻美術館の将来を想う」と続く。いずれも美術館の前途を憂い、こうあってほしいとの会員有志の叫びだ。

こうした思い、意見は無署名の「抜海の目」だけではない。8 号の「美術館は生きもの」と題した小林金三氏の数々の疑問、9 号の西村一夫氏の一市民としての美術館への要望、さらには 10 号の「汚れた彫刻は札幌の恥―何とかなりませんか」の榎本真澄さんの問いかけへと続く。

これは美術館が札幌彫刻美術館という名称であるからには、北海道の中心都市札幌市にふさわしい活動をしてほしいという強い願いの表れにほかならない。

いつも話題になる美術館は誰のもの？―当然、、市民のもの、道民のもの、美術を愛する人たちのものだろう。情報を私物化し、外部に発信もできない現状は、批判を恐れ、リピーターに背を向ける行為としか言いようがない。

「いずみ」5 号で橋本会長が、「魅力的なオアシスとしてあるために」と、数々の具体的な提言をしているが、その提言はどのように受け止められたのだろうか。

みんなで協力し合って、誇れる札幌の美術館を作ろう。ひとつの目的にベクトルを合わせて。

編集後記

本郷新生誕 100 年記念特集号の編集を思いがけず引き受けることになり、悪戦苦闘の末、何とか形にすることができました。冊子の編集など初体験で原稿の割り付けをはじめすべてが試行錯誤の連続でした。寄せられた原稿は出来るだけ原文尊重を心かがけましたが、用字用語、表記など一部、手を入れさせていただきました。お許しください。いずれにしろ、何とか限られたページの中に収めることができてほっと肩の荷を降ろしたところです。（大内）

札幌彫刻美術館友の会ホームページ

http://sapporo-chokoku.jp

彫刻美術館友の会　会報「いずみ」№11
2005 年 4 月 1 日発行
〒064-0954　札幌市中央区宮の森 4 条 12 丁目
財団法人札幌彫刻美術館内
℡・fax：011-642-5709
編集責任者　濱　久子
編集委員の連絡先：電話とファクス
斉藤美年子：011-643-7246
濱　久子：011-893-5212